

DA-5000W EXとDA-7000の違いは？

ベースになるDA-5000(鉄ケース版)が発売になってから既に10年以上が過ぎました。これ以前のDA-1000、-2000も含めD/Aコンバーターの開発に長く関わってきましたが、開発当初から「キーパーツや回路云々よりも周辺部品や筐体そのものによる影響の方がむしろ大きい！」というのが基本的な認識でした。DA-1000、-2000、-5000…と時代と共にキーパーツが進歩し当然、違った発想で造られてきましたが、-5000と-7000はベースの回路、基板レベルでは全く変わっていません。「音の良い部品を探すのが一番重要なテーマ！」という考えで、逐次-5000は改良されてきました。Wタイプ(ウッドケース版)に移行したのもその過程のひとつです。その後、スケルトンパーツの多用化、配線の7N化等が盛り込まれ、当時最高クラスだったDA-5000W EXの姿も大きく変遷しています。



そこで、このたび希望が多かったデジタル入力の多入力化からスタートし、ケースデザインを一新し、DA-7000を発表させていただく運びとなりました。

DA-5000W EXと基本コンセプトは同じで、これに関しては弊社ホームページをご参照ください。以下、DA-5000W EXからの改良点に着目してご説明致します。

◎入力系統に関して

SPDIF 同軸RCA、光 TOS 各1入力に対し同軸×3、光1入力に。

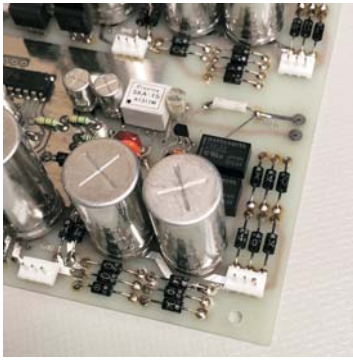
入力切替は音質劣化や接点不良の恐れがあるリレーは使わない電子切替方式です。

開発当初パソコン用USB入力も検討しましたが、USBケーブルは長くするとトラブルが増えるため、実用的なメリットを考慮してUSB/RCA変換は別の専用機(弊社DD-7000等)を使うことを前提のスタイルといたしました。(同軸デジタルケーブルは2m以上延ばしても問題ありません)

◎メイン基板の電源部に関して

主要電源3系統に関しては単なる三端子レギュレーターから最新のスケルトン抵抗器SKRAにより昇圧する方式に改良。(SKRAも近日注にネットにアップの予定です。…更にアナログ出力部は一切レギュレーターを使わない整流コンデンサー直結方式！です。この辺りは真空管アンプライクで高音質レギュレーター以上の音質です)

整流用はレスポンスの良い小型ショットキーDを複数パラに使用。パラ化で更に力強さがアップします。

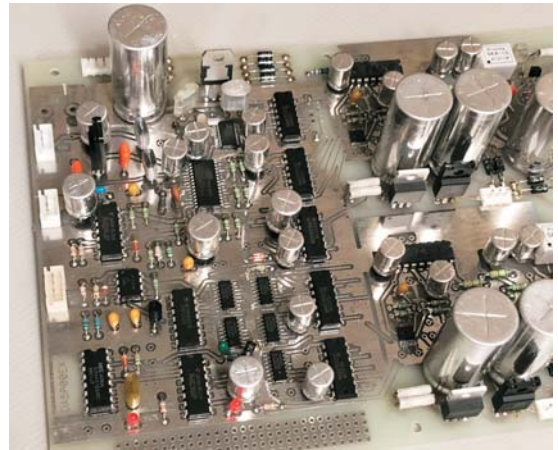


〈メイン基板部〉

特徴的なノンレジスト基板と
多種多数のスケルトン
パーツによる構成

〈アナログ出力電源部〉

小電力部でもショットキー
ダイオードを複数パラ使用！
白いモジュールがSKA-1



◎CRパーツ、スケルトン化の磨き上げ

スケルトン抵抗器はほぼ総て新型のSKRAタイプに変更。旧タイプSKRと比べSKRAはより滑らかで肉付きの良さが特長です。ボーカル等のリアル感で大きな差が出ます。電源パスコンにスケルトン・ポリプロC(SKC)を多用しています。パスコンの質に依っては逆効果なことが多いのですが、スケルトンケミコンとの相性の良さが確認され効果が認められたポイントに追加しました。(SKCは既にネットアップ済みです)

◎スケルトン アンプモジュールの採用

IV変換に高音質な市販オペアンプを使用していたのに対し、弊社のスケルトンアンプSKA-1モジュールに変更になりました。

以前は(市販)オペアンプ式と真空管出力式のメリットが甲乙付けがたい時期があり、並行して製造してきましたがSKA式の圧倒的優位が認められ、D/Aに関しては真空管式を諦めた経緯があります。(ステレオ誌2018/4月号に掲載されました。近日中にネットで紹介致します)

(以前SKA-1はネットで紹介し外販も行っておりましたが高額不正販売や機械的強度面での難もあり外販は取りやめ内製機器のみに採用しておりました。が、近いうちに¥1万@程で販売を再開する予定です)

◎配線材のオール7N線化

DA-5000-は一部ポリエチレン被覆OFC線を使っていたのに対し-7000では全7N線化されました。当初は一部配線では2種の線材の明確な差が認められなかったため敢えて他種線材を使っていたが、現時点では7N線のシース化学処理が進み相当な差が認められ、結果、オール7N配線になりました。

◎木ケース塗装処理の高音質化

DA-5000-のケースは分厚いウレタン塗装仕上げでしたが、基本、外面のみの薄手水性塗装に変更致しました。塗装は厚い程、音にベールが掛かる感じになりますのでより開放感がアップしました。

(逆に塗装の手間は大幅にアップします。塗料自体の色ではなく着色塗装の上にワニス仕上げなので木目によって仕上がりのバラツキが出やすいのがひとつの欠点です。感覚的には古い家具の塗装です)

◎入出力コネクタ類のハイグレード化

電源部ACインレットは純銅ピンを使ったジョデリカETP-600を採用。電源系でも信号ケーブルを換えるのに近い差が出ます！アナログ出力RCAコネクタは久々にWBT社製(O210CU)の採用となりました。このタイプはWBTとしては薄手の純銅板を使った異色の造りでWBTっぽい煌びやかさは無く、逆に落ち着いた肉厚な音が楽しめます。



純銅ピン
電源コネクタ

その他、以下のメリットはそのまま踏襲されています。

◎「5個のカットトランスによる独立電源方式」には変わりありません。ニゴリ感を極限まで排除し力強さを保つための極めて贅沢な選択です。(最近、高価なカットコアトランスは需要自体が少なく、年々価格が急騰しています)

◎ 手造り純銅プラグの超高音質デジタルケーブルDG-7000A(-7000の改良版。プラグの小型化等)が標準付属となります。他社のデジタルケーブルでは殆ど本機のポテンシャルを引き出せないため、このケーブルが必須です。

出力コネクタ部

